



陽の木かげ・そよかぜだより



ご入学、ご進級おめでとうございます！子ども達も新しい環境にドキドキ、わくわくしていることでしょう。これからさらに成長していく子どもたちを保護者の皆様と共に見守れたらと思います。時には疲れることもあると思います。そんな時は
お家でゆっくり過ごしたり病児保育をご利用ください。



学校感染症

— 集団生活において予防すべき感染症 —

集団生活をしていると感染症にかかりやすくなります。感染した場合には、出席停止期間を守り、感染症の蔓延を防ぎましょう。



第1種

病名	出席停止期間
エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘毒、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ	治療するまで

第2種

病名	症状	出席停止期間
インフルエンザ	急な発熱、頭痛、筋肉痛、喉の痛み、体のだるさ、咳	発症した後、5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過するまで
百日咳	2週間以上続く咳、長く咳き込んだ後、ヒューと笛音を発する	発熱の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質服用による治療が終了するまで
はしか	発熱、咳、鼻水、目の充血、口の中の白い水疱、発疹	解熱した後3日を経過するまで
おたふくかぜ	発熱、頭痛、体のだるさ、耳の下の腫れ	耳の下の腫れが出てから5日を経過し、全身体態がよくなるまで
麻疹	バラ紅色の発疹、リンパの腫れ	発疹が消えるまで
水ぼうそう	発熱、紅斑、水疱、かさぶた	すべての発疹がかさぶたになるまで
ブール熱	発熱、喉の痛み、喉の赤み、水疱	症状が消えた後2日を経過するまで
猩紅熱	2週間以上続く咳、たん、微熱、体のだるさ	医師の診察において感染の恐れがないと認められるまで
手足口病	発熱、手の平や甲、口の中に赤い発疹や水疱	全身体態が安定していれば差可
溶連菌感染症	発熱、喉の痛み、舌の発疹、身体の発疹	適切な抗菌薬による治療開始後24時間以降
ヘルパンギーナ	発熱、喉の痛み、喉の赤み、水疱	全身体態が安定していれば差可
マイコプラズマ肺炎	発熱、長引く咳、たん	症状が安定したら差可

感染経路

- 飛沫感染
咳やくしゃみをした時に飛ぶ病原体を含む水滴(飛沫)を吸い込むことで感染します。マスクをして予防しましょう。
- 空気感染
口から飛び出した病原体が空気の流れによって距離し、感染します。はしかや水ぼうそうなどが該当します。ワクチンで予防しましょう。
- 経口感染
口に入ったもので感染します。例えば、ノロウイルスなど、便中に排泄される病原体が、便溺やトイレのドアノブに触った手から経口感染します。



感染予防法



■手洗い

手首の上まで、できれば肘まで石けんを泡立てて洗うよう促しましょう。布タオルの共用は避けてください。

■咳、くしゃみ

唾液や鼻水が手についた場合は手洗いを呼びかけましょう。

■吐物、下痢

吐物処理を行う時はゴム手袋にマスクをし、ペーパータオルなどで拭き取ります。拭き取った物はビニール袋に二重にして捨てましょう。便や吐物の付着した箇所は、できれば塩素系消毒剤で消毒します。



3月12日～4月8日までに病児保育「陽の木かげ」でお預かりした病名と多かった年齢
 多かった病名…咽頭炎、感冒性胃腸炎、急性胃腸炎の順で多かったです。
 多かった年齢…1歳、4歳、8歳の順に多かったです。

おむつかぶれ



おむつが直接あたる部分が炎症を起こした状態のことを言い、湿気や汗、カビ、サイズの合わないおむつの摩擦による刺激など、複数の要素が重なって起こります。なかでも一番の原因は、乳児特有の水っぽい便や尿で、肌に長時間付着すると、かぶれた状態になります。こまめなおむつ替えをして清潔に保つのが一番の予防法です。かぶれてしまったら、患部に強い刺激を与えず、汚れをぬるま湯で洗い流し、柔らかいタオルで優しく拭き取り、適切な軟膏を塗りましょう。石けんで洗うのは、1日1回で大丈夫です。

令和3年3月22日～3月28日までの統計

定点報告疾患	警報基準値		注意報基準値	始良保健所管内推移				県全体		
	開始基準値	終息基準値		1週間前	今週		今週			
				定点当たり報告数	報告数(人)	定点当たり報告数	前週からの増減	報告数(人)	定点当たり報告数	前週からの増減
インフルエンザ	30.00	10.00	10.00	0.00	0	0.00	→	0	0.00	→
RSウイルス感染症	-	-	-	0.14	1	0.14	→	8	0.15	↓
咽頭結膜熱	3.00	1.00	-	0.14	7	1.00	↗	43	0.80	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.00	4.00	-	0.29	7	1.00	↗	42	0.78	↓
感染性胃腸炎	20.00	12.00	-	4.43	25	3.57	↓	261	4.83	↓
水痘	2.00	1.00	1.00	0.29	3	0.43	↗	11	0.20	↓
手足口病	5.00	2.00	-	0.00	0	0.00	→	3	0.06	↗
伝染性紅斑	2.00	1.00	-	0.00	0	0.00	→	0	0.00	↓
突発性発疹	-	-	-	0.14	2	0.29	↗	23	0.43	↗
ヘルパンギーナ	6.00	2.00	-	0.00	0	0.00	→	1	0.02	↗
流行性耳下腺炎	6.00	2.00	3.00	0.00	0	0.00	→	2	0.04	↓
出血性結膜炎	1.00	0.10	-	0.00	0	0.00	→	0	0.00	→
流行性角結膜炎	8.00	4.00	-	0.00	1	1.00	↗	2	0.29	→

《新型コロナウイルス感染症のリバウンドを防ぐために》

県内での初発例（始良保健所管内）が報告されてから、3月26日で1年経ちました。現在、県内では、鹿児島市の飲食店でのクラスター関連により、感染者数が急増していますが、クラスター以外の感染者も毎日報告があり、29日には、変異株の陽性例が2例確認されています。年度末・年度初めを迎え、進学や就職、転勤に伴う人の移動で人と接触する機会が増えることにより、従来型より感染力が強いとされている変異株が流行の主流に置き換わり、今後、感染者数がさらに増加することが予想されます。「リバウンド（感染の再拡大）」を防ぐため、引き続き3密を避ける、マスク着用（飲食中の会話時も）、しっかり手洗いをする、人との距離を確保する等の基本的な感染防止対策の徹底をお願いします。職場の管理者におかれては、感染対策の見直しと体調不良時には出勤しないよう職員への周知徹底をお願いします。

